

武蔵野教育研究

第2巻第6号

2009年6月20日

武蔵野教育研究会

目 次

佐々木 隆	コース制度に関する一考察——事例 武蔵野学院 大学の場合	1
-------	---------------------------------	---

本稿は前稿「教養教育に関する一考察——事例 武蔵野学院大学の場合」(第2巻第5号)の内容をさらに進め、教育課程における教養教育及び専門教育をコース制度として捉え直した場合に、どのような教育課程が考えられるのかを考察したものである。ここでは、卒業要件科目以外に設置されている資格関連の科目を加えるが、現状の教育課程を大きく変更せずに、さらに、コース制度を導入した場合の可能性について特に焦点を当てた。

1 武蔵野学院大学の教育課程

武蔵野学院大学の教育課程(卒業要件科目)は区分としては「基礎科目」と「専門科目」から分かれている。

学位は学士(国際コミュニケーション)である。設置認可を受けた際の学問的な分野は「文学」ではあるが、学問の性格上、社会学的な要素もかなり含まれている。大学設置基準を受け、学則では卒業要件単位は124単位以上と定めている。

「基礎科目」はすべて選択科目であるが、すべて2単位、卒業要件単位としては合計20単位以上の選択必修単位が課せられている。

文化

文学、歴史、民俗学、倫理学

社会

日本国憲法、現代社会と法、現代社会と政治、現代社会とビジネス、現代社会と情報

科学

環境と科学、生活と自然、生活と科学、コンピュータと情報数学

スポーツ

保健体育、スポーツ 1、スポーツ 2、スポーツ 3、スポーツと健康 1、
スポーツと健康 2

総合科目

英語コミュニケーション、中国語コミュニケーション、かけがえのない地球、人間と安全保障、女性論、ボランティア、現代企業と職業、リカレント教育論

「基礎科目」は「人文」「社会」「科学」「スポーツ」「総合科目」に分かれているが、「社会全体の価値観の多様化」⁽¹⁾を理解するような内容で構成されていることが重要である。この意味で「現代社会と法」「現代社会と政治」「現代社会とビジネス」「現代社会と情報」はその特徴を備えている。また、「基礎科目」の中でも「総合科目」はいわゆる「総合的な学習の時間」をさらに深めたものであると同時に、様々な分野を横断する科目が配置された。本学の「基礎科目」は中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（2006年2月21日）に概して内容を反映していると言ってよい。

「外国語によるコミュニケーション能力」、「コンピュータによる情報処理能力」については基礎科目と専門科目の必修科目 8 科目 16 単位を加えることで十分に対応できるだろう。その 8 科目 16 単位（すべて 1 科目 2 単位）は以下の通りである。

Freshman English Reading, Freshman English Writing
Freshman Oral English, Advanced English Reading,
Advanced English Writing, Advanced Oral English,
情報処理入門, Computer Training 1

もちろん、英語にしる情報関連の科目にしてもさらに多くの選択科目が用意されていることは言うまでもない。

2 武蔵野学院大学の「建学の精神」と「養成する人材像」

武蔵野学院大学の「建学の精神」は「他者理解」であり、これを実現するために4つの教育方針が掲げられている。

- 1 国際的な視野を持ち、自己や自国文化および多様な他者に対する理解力に裏付けられた国際社会に貢献する人材の育成を目指す。
- 2 国際的な協調、国際的な理解があらゆる分野で望まれている国家的要請に応え、異なる他者とのコミュニケーションを実現していくツールとして、コンピュータ技術を習得するとともに、社会で英語を使いこなせる英語コミュニケーション能力に長けた人材を育成する。
- 3 教養を単に知識に止めるのではなく、体験を通じて身につけることにより自発的に国際社会に貢献しうる人材を育成する。
- 4 多様化する社会に対応するため、異文化への理解、尊重や交流、グローバルな視野で多元的に思考し、行動する質の高い人材の育成を目指す。

教育方針を基にこれを実現するための養成する人材像とは以下の通りである。

教育上の理念、目的および養成する人材像

現代社会では、「グローバル化」「ボーダレス化」が進み、異文化に対する理解、尊重や相互交流、地球的・多元的な視野が求められています。又、その前提としての自国文化・日本事情への理解や、少子高齢化

に伴う異なる世代への理解力も期待されています。変化が速い社会にあつては、法律、政治、経済等への理解も必須です。

このような社会にあつて、本学では、国際的な視野をもち、自己や自国文化、および多様な他者に対する理解力に裏付けられた人材の養成を目指しています。

- ① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。
- ② 文化や国際社会を理解すること。
- ③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。
- ④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。
- ⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

上記を実現するために現行では「異文化理解」「ビジネス理解」「人間理解」の3つの履修モデルがある。その目指すところは以下の通りである。

- ・異文化理解・コース：異文化と自国文化の「共生」を目指す人材を目標とし、卒業後は国際コミュニケーションの能力を国際舞台で発揮できるような職場（特に、貿易会社、国内外旅行会社、海外の日本企業、国際公務員、通訳等）に進出していくことを目指す。
- ・ビジネス理解・コース：グローバル・ビジネス社会を先導する人材を目標とし、卒業後はコミュニケーション・ツールを駆使する能力を活かして国内外の企業に就職しビジネス界（特に、コンピュータ関連、金融、販売等）で活躍する人材を目指す。
- ・人間理解・コース：世代を越えた相互扶助的な「共生」的關係を構築し、自らの人生を豊かにしていくことのできる人材を目標とし、卒業

後も地域での社会貢献や国際貢献に従事するほか、NGO(Non-Governmental Organization) や NPO(Non-Profit Organization)などでの活躍を目指す。

以上の履修モデル・コースは中教審「新しい時代における教養教育の在り方について(答申)」の「第2章 新しい時代に求められる教養とは何か」で重視されていた5点とオーバーラップするものではないだろうか。その5点とは以下の通りである。

- (1) 社会とのかかわりの中で自己を位置付け
- (2) 異なる国や地域の伝統や文化を理解し、お互いに尊重し合うことのできる資質・態度を身に付ける必要がある。世界の人々と外国語で的確に意志疎通を図る能力も求められる。
- (3) 倫理的な課題や、環境問題なども含めた科学技術の功罪両面についての正確な理解力や判断力
- (4) 知的活動の基盤となる国語力の育成
- (5) 「修養的教養」。我が国の生活文化や伝統文化の価値を改めて見直す⁽²⁾

(1) については本学の建学の精神である「他者理解」そのものがこれに当たる。(2) については、本学の人材養成像の①・②・③がまさにそれに当たるものだ。本学では「専門科目」「専門実習科目」「専門ゼミ科目」として以下のような区分を設けている。

言語コミュニケーション科目
コンピュータコミュニケーション科目
人間コミュニケーション科目
日本理解関連科目

国際情勢関連科目

地域事情関連科目

国際コミュニケーション実習

国際コミュニケーション関連ゼミ

「国際コミュニケーション実習」の具体的な科目には以下のものが配置されている。

海外研修、国際交流、インターンシップ1、インターンシップ2、国際ボランティア、ボランティア1、ボランティア2、日本の伝統文化1（華道・茶道）、日本の伝統文化2（書道・伝統芸能）

(3)については、「基礎科目」の「文化」「社会」「科学」「総合科目」などがおもにそれに当たる。特に環境問題については大きな関心事であることは言うまでもないことだ。本学独自の科目「かけがえのない地球」なども特徴ある科目である。もちろんそれ以外にも倫理的な課題という意味では「倫理学」、「現代社会と情報」、に加え、「専門科目」の「情報関連法規」などがこれをカバーすることになる。

課題が残るとすれば、「(4) 知的活動の基盤となる国語力の育成」であろう。武蔵野学院大学には卒業要件科目とは別に資格の課程（日本語教員養成課程、プレゼンテーション実務士）もあり、その中に「日本語表現法」が開設されている。こうした科目を「基礎科目」に位置付けることにより、全学生に履修の機会を与えることは今後の課題となろう。もちろん一科目だけを設置しても大きな変化とは言えないが、教育課程における科目の追加等の変更については、教育目標や養成する人材像とも大きく関連するものであることを忘れてはならないのだ。養成する人材像の①には以下のようにある。

国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。

ここには当然国語力が含まれる。「グローバル・リテラシー」そのものを身に付けることが人材養成像として標榜されているのである。また、本学では留学生も毎年入学している現状を考えると、「基礎科目」に「日本語コミュニケーション」といった科目を設置し、「専門科目」として留学生や帰国子女用に配置している「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」の他にも日本語を教養としてさらに専門的に学ばせる機会を設定することも一案かもしれない。

(5)については、「基礎科目」に民俗学、「専門科目」に「日本文化論」、「日本の生活文化」、「日本の伝統文化1（華道・茶道）」、「日本の伝統文化2（書道・伝統芸能）」などが配置されていることから、異文化理解と同時に日本人としてのアイデンティティを確認し、自文化の再評価をする科目も配置されていることは評価できよう。

3 コース制度の導入について（案）

武蔵野学院大学の教務部委員会で検討されたコース制度の導入についての議論を踏まえて、現在の教育課程についてコース制度の「1）必要性」「2）メリット・デメリット」の検討が行われた。

1) 必要性

学生は自分が何を学びに大学に入学するかを明確化することによって、学生の卒業後のイメージをさらに明確させる一方、学生募集という観点から大学の方向性を明確にすることができる。大学としてスタンスをアピールできる。

2) メリット・デメリット

現状では大学に入ってから自分の将来を考えていく学生も決して少なくないことも考慮しなければならない。現在の履修モデルは卒業要件以外の推奨としていることから、迷っている学生には、セメスター制度を生かし、履修登録ごとに2年間はじっくりと考えていくことが可能である。また、大きく変更があっても、卒業に響くようなことはなく、対応できるような状態である。コース制にした場合には、当然卒業要件との問題から、要件科目の履修がなされない場合には、卒業ができなくなる恐れもある。学生も今以上にリスクを負うことになる。また、時間割上の配慮が複雑になり、対応がほとんどできなくなってしまうという問題も生じてくる。

しかし、これまで2期生までの卒業を輩出しているが、留学生が現状の履修モデルで充分かどうか大いに検討すべき余地がある。なぜなら、現在では学生の4分の1から3分の1が留学生となり、留学生への配慮は無視できない状態である。当初は、留学生はもっと積極的に日本語教員養成課程を履修するものと計画していたが、実際には履修者も少なく、数人のみが日本語教員養成課程を修了するのみである。一方で、もっと日本語、日本関係の科目を履修したいという気持ちもあるが、卒業要件科目の科目設置との整合性もあり、開学してからの学生からの要望として耳を傾けることも必要であろう。

コース制を採るとすれば、科目の配置の増加（担当教員を含め）もある程度伴い、また、留学生に配慮したものがよいと思われる。さらに、日本人学生からの要望がある福祉系の科目の設置も検討すべきであるが、本学が文学分野の学士（国際コミュニケーション）ということから、社会学系の科目が多くなると、カリキュラムとしてのバランスも見なければならない。

コース制は「建学の精神」及び「教育方針」、「教育上の理念、目的および養成する人材像」をより具体化するために、目指す人材像を明確化させるためのものでなければならぬ。そのためには、現在の教育課程に新たな科目の配置やコースの設定などが必要となってくる。これまでの3つの履修モデル・コース「異文化理解・コース」「ビジネス理解・コース」「人間理解・コース」を再構築し、「ビジネス・コース」「ヒューマン・ケア・コース」「グローバル・メディア・コース」「ジャパン・コース」の4つコースとし、科目の追加配置、さらにコース毎の履修方法についても工夫が必要である。現行では専門科目との関連性から「〇〇理解・コース」という名称で統一していた。ここで3つの履修モデルと試案の4つのコースとの関係を述べておきたい。

現行 → (案)

「ビジネス理解・コース」→「ビジネス・コース」

* 学生が就職等を意識するとどうしてもこのコースが他のコースに比べると、最もコース履修が多い。

「人間理解・コース」→「ヒューマン・ケア・コース」

* 社会学・福祉系の科目は現行でも学生に人気のある科目が多い。特に心理学系の科目の履修は多い。試案としては、現行の教育課程に「心身障害児教育Ⅰ」「心身障害児教育Ⅱ」の2科目を加え

「異文化理解・コース」→「グローバル・メディア・コース」

* これまでは異文化に焦点を当てていたが、これまで配置されていた科目の位置付けを変え、メディア的なものとセットとしてグローバルな視点から捉えることを目指した。これまでの「異文化理解・コース」を再構築したコースである。

(なし) →「ジャパン・コース」(新設)

* 留学生を特に意識したコースである。現実的に、本学への留学生

の日本語学習機会をさらに増やし、日本理解をさらに進めることが大きな理由である。大学院への進学も多いことから、新設したコースである。なお、試案として言語コミュニケーション科目に日本語教員養成課程の8科目を卒業要件科目へ参入させる。これ以外にも同養成課程の「日本語教育史」を卒業要件科目へ、日本事情もこれまで1科目であったものを3科目へ分離するなどすることで留学生への配慮としたい。

「建学の精神」及び「教育方針」、「教育上の理念、目的および養成する人材像」とコース制度との関係を次のように捉えたい。

教育上の理念、目的および養成する人材像として5つのポイントを挙げていたが、コース制度の導入をするとすれば、追加もある程度必要となろう。(下線部が追加箇所)

- ① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。なお、留学生は日本語のコミュニケーション能力を身に付けること。
- ② 異文化や国際社会を理解すること。
- ③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。
- ④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。
- ⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

ビジネス・コース

●ビジネス・コースでは、ビジネス社会で活躍し、新たなビジネス・チャンスを開拓できる人材を養成します。本学の教育上の理念、目的およ

び養成する人材像の5つのポイントのうち、以下を重視したものです。

① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。なお、留学生は日本語のコミュニケーション能力を身に付けること。

② 異文化や国際社会を理解すること。

⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること

●卒業後の進路先：コンピュータ関連、金融・証券、販売等の国内外の企業

●履修上の選択必修科目

「言語コミュニケーション科目」 「Integrated English」 「Public Speaking」 「Freshman Communication English」 「Advanced Communication English」 「英語討論」 「ビジネス英語」 より8単位選択必修。「コンピュータコミュニケーション科目」 「情報関連法規」 「デジタル通信」 「情報機器利用プレゼンテーション演習」 「社会情報システム論」 「情報と職業」 より6単位選択必修。

「国際情勢理解関連科目」 「国際コミュニケーション」 「国際サービス」 「ビジネス・マネジメント」 「簿記・会計」 「金融論」 「国際経済協力」 より6単位選択必修。「地域事情理解関連科目」 より4単位選択必修。

●履修上推奨する基礎科目での科目

「現代社会と法」 「現代社会と政治」 「現代社会とビジネス」 「現代社会と情報」 「コンピュータと情報数学」 「日本語表現法」 「現代企業と職業」。

ヒューマン・ケア・コース

●ヒューマン・ケア・コースでは、企業や自営業での活動に従事しながら、余暇を利用して他者に奉仕する人材を養成する。また、教育・福祉関係の施設や企業で活躍する人材養成を目指す。本学の教育上の理念、

目的および養成する人材像の5つのポイントのうち、以下を重視したものです。

② 異文化や国際社会を理解すること。

④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。

⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

●卒業後の進路先：社会貢献や国際貢献に従事する職業、NGO や NPO をはじめとする様々な組織。社会福祉主事人用資格などの取得も可能なことから社会福祉関係施設。

●履修上の選択必修科目

「人間コミュニケーション理解関連科目」「社会学概論」「心理学概論」「カウセンリング」「発達心理学」「社会心理学」「教育社会学」「社会福祉」「老人福祉」「家族関係論」「世代交流論」「心身障害児教育Ⅰ」「心身障害児教育Ⅱ」より18単位選択必修。「地域事情理解関連科目」より6単位選択必修。

●履修上推奨する基礎科目での科目

「倫理学」「保健体育」「スポーツと健康1」「スポーツと健康2」「人間と安全保障」「女性」「ボランティア」「リカレント教育論」。

グローバル・メディア・コース

●グローバル・メディア・コースでは、異文化理解の上に、様々なメディアやコンテンツによるコミュニケーション能力を身に付け、国家にとられないグローバルな視点で活躍できる国際人の人材の養成を目指す。本学の教育上の理念、目的および養成する人材像の5つのポイントのうち、以下を重視したものです。

② 異文化や国際社会を理解すること。

③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。

⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領

域を重視すること。

●卒業後の進路先：貿易会社、旅行会社、海外の日本企業。

●履修上の選択必修科目

「人間コミュニケーション理解関連科目」「コミュニケーション概論」「マス・コミュニケーション概論」「異文化コミュニケーション」「プレゼンテーション」「コマーシャル表現論」「映像表現論」より8単位選択必修。

「国際情勢理解関連科目」「国際コミュニケーション」「国際関係」「国際情勢」「国際情報論」「危機管理」「国際政治史」「国際文化交流」より8単位選択必修。

「地域事情理解関連科目」より8単位選択必修。

●履修上推奨する基礎科目での科目

「民俗学」「現代社会とビジネス」「現代社会と政治」「環境と科学」「かがえのない地球」「人間と安全保障」。

ジャパン・コース

●ジャパン・コースでは、日本文化や日本語コミュニケーション能力を高め、海外に日本の文化や日本語を普及させる人材を養成する。特に留学生に進めるコースである。本学の教育上の理念、目的および養成する人材像の5つのポイントのうち、以下を重視したものです。

① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。なお、留学生は日本語のコミュニケーション能力を身に付けること。

② 異文化や国際社会を理解すること。

③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。

●卒業後の進路先：海外で日本文化の普及や日本語を教える人材養成。留学生の場合には母国で日本語を教える人材養成。また、大学院進学や

日本での就職をし、母国との架け橋になる人材養成。

●履修上の選択必修科目

「言語コミュニケーション科目」の「日本語文法論」「日本語論」「日本語学概論」「日本語音声学」「日本語語彙研究」より6単位選択必修。

「日本理解関連科目」より10単位選択必修。「地域事情関連科目」より8単位選択必修。

●履修上推奨する基礎科目での科目

「文学」「歴史」「民俗学」「日本国憲法」「日本語コミュニケーション」「日本語表現法」。

4 コース制度の導入への課題

現行の履修モデル・コースとコース制度（案）を比較してみれば、当然メリットとデメリットは生じてくる。特に、新しい科目を設置した場合には、その維持が最も大きな課題である。科目には当然教員が伴うこととなり、人事面の問題も浮上してくることになる。

コース制（案）

- 1) コース制が卒業要件となるため、コース意識が高まり、より本学の目指す人材養成が明確化される。一方で、コース制をいつまでに確定させるかは、かなり大きな課題である。また、本学が3・4年次で実施しているゼミとの関連がコース制度と整合制がとれているのかどうか。
- 2) 新しい科目を卒業要件に加えるため、特に留学生を想定したジャパン・コースはかなり有効なのではないかと思える。また、これまであまり取得者が出なかった日本語教員養成課程についても、大きな効果があると予想される。資格の科目が卒業要件に加わることで、資格取得がより現実的となる一方、学内における資格の登録料などの徴収に

ついて説明が付けられるか。今の金額のままで推移して問題はないか。これまでは、卒業要件とは別のオプション的な科目であるため、登録料を設けていたが、意味合いとしてどうか。

- 3) コースにより選択必修単位数等をさだめたが、本来ならば、必修科目を設定したほうがよいが、認証評価機構より必修科目担当者は准教授以上が担当するようにとの指導があったので、科目の維持と今後の担当者のことを考慮し、選択必修科目としたが問題はないか。卒業要件となるため、設定の程度が難しい。
- 4) コースの決定時期が難しい。卒業要件となるため、2年次の前期履修登録で確定あたりがよいか。3年次編入学生は変更なしの確定でないかと卒業ができなくなる可能性がある。これまでの事例から留学生が多くなるが、ジャパン・コース、ビジネス・コースならば問題はない。編入学生への配慮をどう考えるか。
- 5) 時間割編成上、ゼミと3・4年次配当科目のバランスがかなり困難となる。再履修者に配慮した時間割編成は極めて困難になる。
- 6) 日本語系統の科目がかなり増えるが、バランス上どうか。
- 7) ジャパンコースを設けたことで、留学生には卒業要件科目として日本語を履修できる機会が増える。
- 8) コース毎に中心になる教員配置ができるかどうか。履修モデル以上に、コース毎の教員配置が重要となる。コア科目を選択必修科目として位置付けるが、必修とする必要はないか？また、必修とする場合には、准教授以上が担当することが望ましいが、現実的に教員配置が可

能か。コース毎の選択必修単位数はどの程度が妥当か。

- 9) コースとゼミとの関連性について。ビジネス・コース系とヒューマン・ケア・コース系のゼミの整合性にやや欠ける点がある。これは履修モデルでもどのような傾向である。
- 10) 卒業要件科目の追加により、充実した感はあるが、今後、教員の配置や確保について問題はないか。現状では、追加科目については現在の専任及び兼任教員で対応可能。日本語コミュニケーション、日本事情Ⅰ～Ⅲについても現専任教員で対応可能な状態。

エピローグ

教育課程の改編等は大学の教育方針、養成する人材像を達成するために、行われることが望ましいと思われる。安易に流行に左右されるものではない。本学も開学し卒業生もようやく2期生を送り出したばかりである。しかし、設置当時から課題はあり、実際に運営していくなかで、予想とは反した学生の動きもある。こうした中で、学生により充実した教育内容を提供し、私学として学生確保という観点から魅力ある大学作りをしていきたいと思うのは、私学の使命であろう。今回は「コース制度」について、本学を例にあげながら考察したが、主専攻・副専攻といった考え方もある。本学が現在、1学部1学科という組織での教育課程ということを見ると、主専攻・副専攻といった内容にはまだまだ踏み込めないのではないかと考えている。最終的には「学生の学力向上」と「学生の卒業後の進路」といったことが大きなポイントであることには間違いのないところである。現状での教員側の授業の工夫や意識の改革なども必要かもしれない。

(武蔵野学院大学教授・教務部長)

注

- (1) 中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）」（2006年2月21日）（<http://www.mext.go.jp/b-menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/020203ahtm>）
- (2) Ditto.

キーワード：教養教育、コース制度、卒業要件科目

* 本稿は2009年4月25日の武蔵野学院大学教務部委員会に提出した資料に加筆修正を施したものである。なお、武蔵野学院大学の「養成する人材像」に関する内容は公開されている2009年版の『武蔵野学院大学 学生便覧』に掲載されているものである。最後に、資料としてコース制度を導入した場合の教育課程表や履修方法を掲載しておきたい。なお、現行のものは本学HPにて公開しているので割愛する。

資料1 教育課程表（案）

*網掛け部分が追加部分。

資料2 履修方法1（案）と現行のもの

資料3 履修方法2（案）

資料1 教育課程(案)

授業科目の名称		配当 年次	単位数又は 時間数		授業 形態	備考
			必修	選択 自由		
基礎 科目	文化	文学	1・2	2	講義	卒業要件 124単位以上 基礎科目(コース共通) 選択必修単位数 20単位 計20単位以上
		歴史	1・2	2	講義	
		民俗学	1・2	2	講義	
		倫理学	1・2	2	講義	
	社会	日本国憲法	1・2	2	講義	
		現代社会と法	2・3	2	講義	
		現代社会と政治	1・2	2	講義	
		現代社会とビジネス	1・2	2	講義	
		現代社会と情報	2・3	2	講義	
	科学	環境と科学	2・3	2	講義	
		生活と自然	1・2	2	講義	
		生活と科学	1・2	2	講義	
		コンピュータと情報数学	1・2	2	講義	
		情報科学	1・2	2	講義	
	スポーツ	保健体育	1・2	2	講義	
		スポーツ1	1・2	2	実習	
		スポーツ2	2・3	2	実習	
		スポーツ3	2・3	2	実習	
		スポーツと健康1	1・2	2	演習	
		スポーツと健康2	1・2	2	演習	
総合 科目	英語コミュニケーション	1・2	2	演習	*日本語コミュニケーションは留学生・帰国子女のみ	
	中国語コミュニケーション	1・2	2	演習		
	日本語コミュニケーション	1・2	2	演習		
	日本語表現法	1・2	2	講義		
	かけがえのない地球	2・3	2	講義		
	人間と安全保障	3・4	2	講義		
	女性論	3・4	2	講義		
	ボランティア	1・2	2	講義		
	現代企業と職業	1・2	2	講義		
リカレント教育論	1・2	2	講義			

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は 時間数		授業 形態	備考
		必 修	選 択 自 由		
言語 コミュニケーション 科目 専門 科目	Freshman English Reading	1	2	演習	言語コミュニケーション科目
	Freshman English Writing	1	2	演習	必修単位数 12単位
	Freshman Oral English	1	2	演習	計12単位
	Advanced English Reading	2	2	演習	言語コミュニケーション科目とコンピュータ
	Advanced English Writing	2	2	演習	コミュニケーション科目の中より、必修を除
	Advanced Oral English	1	2	演習	いて選択必修単位数 20単位
	Integrated English	3・4	2	演習	計20単位以上
	English Grammar	2・3	2	演習	
	Public Speaking	2・3	2	演習	ビジネス・コース
	Freshman Communication English	1・2	2	演習	「言語コミュニケーション科目」
	Advanced Communication English	2・3	2	演習	Integrated English, Public Speaking,
	英語討論	3・4	2	演習	Freshman Communication English,
	ビジネス英語	3・4	2	演習	Advanced Communication English, 英語
	英語学概論	2・3	2	講義	討論、ビジネス英語より8単位選択必修。
	英米文学史	1・2	2	講義	ジャパン・コース
	英語講読	3・4	2	演習	「言語コミュニケーション科目」の日本語
	中国語Ⅰ(初級)	1・2	2	演習	文法論、日本語論、日本語学概論、日
	中国語Ⅱ(中級)	1・2	2	演習	本語音声学、日本語学概論より6単位
	中国語Ⅲ(上級)	2・3	2	演習	選択必修。
	フランス語Ⅰ(初級)	1・2	2	演習	
	フランス語Ⅱ(中級)	1・2	2	演習	
	日本語Ⅰ(初級)	1・2	2	演習	※日本語Ⅰ～Ⅲは留学生・帰国子女のみ
	日本語Ⅱ(中級)	1・2	2	演習	
	日本語Ⅲ(上級)	2・3	2	演習	
言語理解論	3・4	2	講義		
言語学概論	2・3	2	講義		
日本語文法論	2・3	2	講義		
日本語論	1・2	2	講義		
日本語学概論	2・3	2	講義		
日本語学演習	3・4	2	演習		
日本語音声学	2・3	2	講義		
日本語学概論	1・2	2	講義		

コンピュータコミュニケーション科目	情報処理入門	1	2	演習	コンピュータコミュニケーション科目
	情報関連法規	1・2	2	講義	必修単位数 4単位
	Computer Training 1	1	2	演習	計4単位以上
	Computer Training 2	1	2	演習	
	情報処理応用演習Ⅰ	2・3	4	演習	ビジネス・コース
	情報処理応用演習Ⅱ	2・3	4	演習	「コンピュータコミュニケーション科目」
	ネットワークシステム	1・2	4	講義	情報関連法規、デジタル通信、情報機器
	システム設計	2・3	2	演習	利用プレゼンテーション演習、社会情報
	デジタル通信	1・2	2	講義	システム論、情報と職業より6単位選択必修。
	情報検索	2・3	2	演習	
	マルチメディア表現	3・4	2	演習	
情報機器利用プレゼンテーション演習	3・4	4	演習		
社会情報システム論	1・2	2	講義		
情報と職業	1・2	2	講義		
人間コミュニケーション理解関連科目	コミュニケーション概論	2・3	2	講義	人間コミュニケーション理解関連科目、日本
	マス・コミュニケーション概論	2・3	2	講義	理解関連科目、国際情勢理解関連科目、
	異文化コミュニケーション	1・2	2	講義	地域事情理解関連科目の中より選択必修
	プレゼンテーション	1・2	2	講義	単位数 48単位
	言語的コミュニケーション論	2・3	2	講義	計48単位以上
	非言語的コミュニケーション論1(音楽表現)	1・2	2	演習	
	非言語的コミュニケーション論2(造形表現)	1・2	2	演習	ヒューマン・ケア・コース
	非言語的コミュニケーション論3(行動表現)	3・4	2	演習	「人間コミュニケーション理解関連科目」
	コマーシャル表現論	3・4	2	講義	社会学概論、心理学概論、カウンセリング、
	映像表現論	1・2	2	講義	発達心理学、社会心理学、教育社会学、
	社会学概論	1・2	2	講義	社会福祉、老人福祉、家族関係論、
	心理学概論	1・2	2	講義	世代交流論、心身障害児教育Ⅰ、心身
	カウンセリング	2・3	2	講義	障害児教育Ⅱより18単位選択必修。
	発達心理学	3・4	2	講義	グローバル・メディア・コース
	社会心理学	2・3	2	講義	「人間コミュニケーション理解関連科目」
	教育社会学	1・2	2	講義	コミュニケーション概論、マス・コミュニ
	社会福祉	1・2	2	講義	ケーション概論、異文化コミュニケーション、
	老人福祉	2・3	2	講義	プレゼンテーション、コマーシャル表
	家族関係論	3・4	2	講義	現論、映像表現論より8単位選択必修。
世代交流論	2・3	2	講義		
心身障害児教育Ⅰ	2・3	2	講義		
心身障害児教育Ⅱ	2・3	2	講義		
関日本理解	日本文化論	1・2	2	講義	ジャパン・コース
	日本の生活文化	3・4	2	講義	「日本理解関連科目」より10単位選択
	日本の文学とことば	1・2	2	講義	必修。
	日本の思想と宗教	2・3	2	講義	
	日本の政治と歴史	1・2	2	講義	
	日本語教育史	3・4	2	講義	

専門科目

国際情勢理解関連科目	国際コミュニケーション	1・2	2	講義	ビジネス・コース	
	国際関係	3・4	2	講義	「国際情勢理解関連科目」国際コミュニケーション、国際サービス、ビジネス・マネジメント、簿記・会計、金融論、国際経済協力より6単位選択必修。	
	国際情勢	1・2	2	講義		
	国際情報論	3・4	2	講義		
	危機管理	1・2	2	講義		
	国際政治史	1・2	2	講義		
	国際サービス	3・4	2	講義		
	ビジネス・マネジメント	3・4	2	講義		
	簿記・会計	1・2	2	講義		
	金融論	3・4	2	講義		
国際経済協力	2・3	2	講義			
国際文化交流	1・2	2	講義			
地域事情理解関連科目	アメリカ文化事情Ⅰ	1・2	2	講義	ビジネス・コース	
	アメリカ文化事情Ⅱ	1・2	2	講義	「地域事情理解関連科目」より4単位選択必修。	
	日米交渉史	3・4	2	講義		
	西欧文化事情Ⅰ	3・4	2	講義	ヒューマン・ケア・コース	
	西欧文化事情Ⅱ	3・4	2	講義		
	オセアニア文化事情	1・2	2	講義	「地域事情理解関連科目」より6単位選択必修。	
	アラブ文化事情	3・4	2	講義		
	東南アジア文化事情	2・3	2	講義	グローバル・メディア・コース	
	中国文化事情Ⅰ	1・2	2	講義		
	中国文化事情Ⅱ	1・2	2	講義	「地域事情理解関連科目」より8単位選択必修。	
	日中交渉史	2・3	2	講義		
	韓国文化事情	1・2	2	講義	ジャパン・コース	
日本事情Ⅰ(生活習慣)	1・2	2	講義	「地域事情理解関連科目」より8単位選択必修。		
日本事情Ⅱ(人間関係)	1・2	2	講義			
日本事情Ⅲ(ビジネス)	2・3	2	講義	※日本事情Ⅰ～Ⅲは留学生・帰国子女のみ		
国際コミュニケーション実習	海外研修	2・3	6	実習	国際コミュニケーション実習	
	国際交流	3・4	2	実習	選択必修単位数 8単位	
	インターンシップ1	2・3	2	実習	計8単位以上	
	インターンシップ2	2・3	2	実習		
	国際ボランティア	2・3	6	実習		
	ボランティア1	2・3	2	実習		
	ボランティア2	2・3	2	実習		
	日本の伝統文化1(華道・茶道)	3・4	2	演習		
日本の伝統文化2(書道・伝統芸能)	3・4	2	演習			
専門ゼミ科目	国際コミュニケーション	演習Ⅰ(入門)	3	4	演習	国際コミュニケーション関連ゼミ
		演習Ⅱ(専門基礎)	3	4	演習	選択必修単位数 12単位
		演習Ⅲ(専門発展)	4, 秋3	4	演習	計12単位以上
		演習Ⅳ(専門完結)	4	4	演習	

資料2 履修方法1(案)

区分		必修	選択必修	卒業要件単位
基礎科目	文化		20	20単位以上
	社会			
	科学			
	スポーツ			
	総合科目			
専門科目	言語コミュニケーション科目	12	20	84単位以上
	コンピュータコミュニケーション科目	4		
	人間コミュニケーション理解関連科目		68	
	日本理解関連科目			
	国際情勢理解関連科目			
	地域事情理解関連科目			
科実専門 目習門	国際コミュニケーション実習		8	8単位以上
科ゼ専門 目ミゼ門	国際コミュニケーション関連ゼミ		12	12単位以上
合計		16	108	124単位以上

*コース別による「専門科目」の選択必修科目68単位のうち、24単位の履修については履修方法2による。

資料2 履修方法1(現行)

区分		必修	選択必修	卒業要件単位
基礎科目	文化		20	20単位以上
	社会			
	科学			
	スポーツ			
	総合科目			
専門科目	言語コミュニケーション科目	12	6	84単位以上
	コンピュータコミュニケーション科目	4	6	
	人間コミュニケーション理解関連科目		10	
	日本理解関連科目		6	
	国際情勢理解関連科目		10	
	地域事情理解関連科目		10	
	目科習実専門	国際コミュニケーション実習		
目科ミゼ専門	国際コミュニケーション関連ゼミ		12	
合計		16	108	124単位以上

資料3 履修方法2(案)

<p>「言語コミュニケーション科目」 Integrated English, Public Speaking, Freshman Communicative English, Advanced Communication English, 英語討論, エッセイ英語より8単位選択必修。</p> <p>「情報関連法規、デジタル通信、情報機器利用プレゼンテーション、情報システム論、情報と職業より6単位選択必修。</p> <p>「国際情勢理解関連科目」 国際コミュニケーション、国際サーベス、ビジネス・エッセイ、簿記・会計、金融論、国際経済協力より6単位選択必修。</p> <p>「地域事情理解関連科目」より4単位選択必修。</p>	<p>英語コミュニケーション</p>
<p>「人間コミュニケーション理解関連科目」 社会学概論、心理学概論、カウンセリング、発達心理学、社会心理学、教育社会学、社会福祉、老人福祉、家族関係論、世代交流論、心身障害児教育Ⅰ、心身障害児教育Ⅱより18単位選択必修。</p> <p>「地域事情理解関連科目」より6単位選択必修。</p>	<p>人間コミュニケーション</p>
<p>「人間コミュニケーション理解関連科目」 コミュニケーション概論、マス・コミュニケーション概論、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション、コヴィンソンズ、現象表現論より8単位選択必修。</p> <p>「国際情勢理解関連科目」 国際コミュニケーション、国際関係、国際情勢、危機管理、国際政治史、国際文化交流より8単位選択必修。</p> <p>「地域事情理解関連科目」より8単位選択必修。</p>	<p>人間コミュニケーション</p>
<p>「日本理解関連科目」より10単位選択必修。</p> <p>「地域事情理解関連科目」より8単位選択必修。</p>	<p>英語コミュニケーション</p>

2-1-1

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学教授・教務部長

武蔵野教育研究会 第2巻第6号

2009年6月20日 発行

武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室